

令和4年度 東京都立志村学園 学校経営報告

統括校長 並木 信治

今年度の取組評価と今後の課題

I 学校経営

◎達成 ○ほぼ達成 △課題あり

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 人権の尊重	学校評価アンケート回収率 児童・生徒・教職員 100% 保護者 90%	アンケート回収率 児童・生徒 88% 保護者 52.8% 教職員 100%	△
	本人アンケート回収率 児童・生徒 100% 教職員面接 100%	アンケート回収率 児童・生徒 80% 教職員面接 100%	○
(2) 4Sの徹底	アンケートでの肯定的評価 90%以上	肯定的評価 児童・生徒 85% 保護者 94% 教職員 85%	○
(3) 組織的な学校経営	式典および記念誌準備年内完了	各種準備はすべて令和4年12月までに完了 式典は適正に実施	◎
(4) 併置校の良さを活かす	両部門の交流の実施 年3回以上	①肢体文化祭における就技部活動発表 ②周年記念行事における交流	△
(5) 信頼される学校づくり	HP、Twitterなどの学校外への情報発信 年250回以上	HP更新等 年間300回	◎
	カフェオープン（校内営業含む）の実施 年30回以上 地域清掃の実施各学年1回以上	レストラン(ランチ)オープン 6回 校内カフェオープン 25回以上 地域清掃実施なし	○
	Web公開による全校公開研究会の実施 視聴期間2週間	計画どおり実施	◎

【今後の課題】

- ・学校評価アンケートの回収率向上
- ・肢体、就技両部門間の積極的交流の促進
- ・時代を担う若手教員の育成と障害種に応じた教員の専門性向上

Ⅱ 学習指導

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) カリキュラム・マネジメント	年間指導計画と個別指導計画の連動を意識した指導内容の作成・実施・評価・改善 (肢体) 観点別評価規準に基づく授業改善を主体としたカリキュラム・マネジメントの推進 (就技)	授業研究に基づく指導内容の評価・改善の実施 観点別評価の完全実施と各教科におけるシラバスの見直し	△
(2) 障害特性を踏まえた指導	個別指導計画の適正実施に係る評価と改善の推進 ニーズに応じた適時・適切な発達検査の実施	個別指導計画は適正に実施 評価と改善について視点の明確化が必要 発達検査実施ケースなし	△
(3) コミュニケーション能力の向上	自立活動部、外部専門家と連携した指導の充実 (肢体) キャリアガイダンスの時間における授業内容の充実 (就技)	計画に基づき、適正に実施 自立活動の時数増 自己理解・他者理解と関連付け、系統立てて実施	○
(4) 外部人材・外部機関の活用	外部専門家による教職員へのフィードバックの実施 100%	適正に実施	◎
	全肢研、関肢研、桐が丘特支研究会等への教員参加複数名	全肢研 3 名、関肢研 2 名発表	◎
(5) ICT 機器の活用	発表会等の実施年 3 回以上 (就技) 調べ学習等の積極的な実施	成果発表会 (3 年)、情報授業における取組等	○
	オンライン、オンデマンドを用いた学習の実施 (随時) 教科の内容に合わせた調べ学習や、調べた情報を整理した発表資料の作成 (随時)	オンライン学習の実施 (2、3 年) 調べ学習、資料作成随時実施	○
(6) オリンピック・パラリンピック教育の推進	アスリートを招聘した授業の実施 年 2 回以上	車いすバスケ、バレー (就技) 車いすバスケ (肢体)	◎
	東京都統一体カテストへの参加 (就技)	参加なし	△

【今後の課題】

- ・各教科間及び日常生活や職業との関連を意識したカリキュラム・マネジメントの推進
- ・全教員の障害特性に係る理解の深化と指導力向上
- ・学校図書館の活用による読書活動の推進

Ⅲ 進路指導・キャリア教育

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 企業就労 100% (就業技術科)	企業就労 100%	就労希望者 就労 100% (全体の 80%)	○
	進路決定 100%	97.4%	○
(2) 進路決定 100% (肢体不自由教育部門高等部)	進路面談 年間 30 回以上	年間 35 回実施	◎
	新たな進路先の開拓 5 件以上	生徒実態に応じ、3 件開拓	○
(3) 未来を創造するキャリア教育	10 年後を見通した職業教育の充実に関する研鑽および成果発表の実施	将来構想委員会 年間 3 回実施	○
(4) 継続教育の実施	本人講座の実施 年間 12 回 相談窓口の設置・対応 (随時)	ハイブリッド形式で年間 12 回 実施 相談随時実施	◎
(5) ロールモデルの提示	不適切な指導、体罰 0	不適切な指導 2 件	△

【今後の課題】

- ・生徒の実態を踏まえた適切な進路指導の継続 (就技・肢体)
- ・関係機関、企業等との連携のさらなる強化 (就技)
- ・各地域の進路状況に係る保護者との積極的な情報共有 (肢体)

Ⅳ 生活指導

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 相談の充実	スクールカウンセラーによる就業技術科全生徒への個別面接を実施 (7 月まで) 継続した面接から相談体制の構築を図る	全員面接 7 月までに完了 SC 相談実績 生徒 82 名、保護者 9 名、教員 14 名	○
	自殺防止、SNS ルール、いじめ防止に関する授業の実施 年間 3 回 (就技)	各学年 年間 3 回実施	◎
(2) SNS の適切な利用	セーフティ教室の実施 年間 3 回以上	生徒対象 3 回 (+ 警察講話) 保護者対象 1 回	◎
(3) 通学手段の充実 (肢体不自由教育部門)	医療的ケア専用車両の安全運行 (肢体) (事故等件数 0 件)	年間事故件数 0	◎
(4) 防災教育の充実	避難訓練の実施 各部門年間 11 回	計画通り実施 (+ 教員対象訓練 3 回)	◎
	宿泊防災訓練の実施 両部門合同年 1 回	宿泊防災訓練 計画通り実施	◎
	地域合同避難訓練の実施 両部門合同年 1 回以上	地域合同訓練 1 回 両部門合同訓練 3 回	◎

【今後の課題】

- ・SC、心理士を活用した相談体制のさらなる充実
- ・自殺防止、いじめ防止、SNS ルールの徹底等に関する指導のさらなる充実

V 特別活動・保健指導・入学相談・交流教育

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 成長を促す部活動	部活動顧問会の実施 年間 2 回以上 年間活動計画・報告の作成、周知 (就技)	計画通りに実施 活動計画・報告については HP にも掲載	◎
	全部活動において、年間 1 回以上の大会又は行事への参加 (就技)	全部活動が各種大会、行事に参加 部活動まつり実施	◎
(2) 文化・芸術と触れ合う教育環境	作品掲示 (随時)	生け花、絵画等随時実施	◎
	校外学習等における、文化・芸術活動の実施 (全学年)	都の事業も活用し、計画的に実施	○
(3) 医療的ケアの推進	第 3 号研修受講済み教職員 80%以上 (肢体)	研修履修率 100%	◎
	必要物品の随時購入による保持 100% (肢体)	必要物品の不足状況発生なし	○
(4) メンタルヘルスケアの充実	メンタルヘルスケアに関する研修の実施 年間 2 回以上	外部講師による研修 1 回	△
(5) 広報活動の多様化 (就業技術科)	学科説明会の実施 年間 20 回 授業体験の実施 年間 5 回 部活動体験の実施 年間 1 回	学科説明会 20 回実施 授業体験 6 回実施 部活動体験 2 回実施 上級学校訪問対応 10 回	◎
(6) 入学・転学相談の充実 (肢体不自由教育部門)	適時、適正な相談の実施 年間 30 回	入・転学相談延べ件数 35 回以上	◎
(7) 交流教育の推進	オンライン交流 年間 2 回以上 ビデオ交流 年間 3 回以上	志村第五小学校 対面交流 長崎 オンライン平和教育	△
	文化祭における舞台発表での交流の実施など	音楽部・ミュージカル部動画交流	○
(8) 都立高等学校への支援 【新規】	連絡協議会の実施 年間 3 回以上 電話、メール、訪問による支援 (随時)	情報交換会 3 回実施 訪問支援 15 回実施 電話・メール支援 複数回	◎

【今後の課題】

- ・積極的な広報活動による受験者数の確保
- ・学校間交流の発展的継続、副籍交流の活性化
- ・都立高等学校への支援体制づくりとネットワークの強化

VI 能力開発・働き方

項目	(数値) 目標	達成状況	評価
(1) 10周年記念式典及び全校公開研究会の実施	必要に応じたプロジェクト会議の開催(随時)	プロジェクト会議 年間7回 式典・行事適正に実施	◎
	オンデマンドによる研究成果の校外発信 再生回数100回以上	研究成果動画 延べ再生回数 400回以上	◎
(2) 未来の特別支援教育を担う人材育成	教育実習生の受入 3名(10月) 計画的な若手教員研修の実施	教育実習生 3名受入 若手研修計画通り実施	○
(3) ライフ・ワーク・バランス	学校閉庁日年間5日	閉庁日5日設定	○
	毎週水曜日最終退勤18:00	定時退庁日(水曜日)実施	△
	マイ・プラス行動 設定率100%	効率的時間活用への意識づけ	△

【今後の課題】

- ・積極的な業務見直しによる教職員の業務効率化や時間の有効活用への意識喚起
- ・持続可能な、「働きがい」のある職場づくり